

平成25年度実験室内消火訓練を実施

核融合科学研究所では、毎年、大型ヘリカル装置（LHD）の実験期間中に、消火訓練を実施しています。今年は、プラズマ実験開始の翌日にあたる平成25年10月3日（木）に実施し、実験関係者約100名が参加しました。

訓練は、大型ヘリカル実験棟本体室内のLHD上部に設置されているLIDコイルから出火したという想定で行いました。9時15分に火災報知器を模擬発報させて訓練を開始し、インターロックによる実験停止動作を確認した後、制御室の実験責任者の指示により、安全確保や装置停止などの非常時の措置が取られました。9時37分には、現場対応班が本体室の模擬出火現場で初期消火活動を行い、2分後に模擬鎮火しました。この間、緊急連絡体制に従った関係部署への模擬連絡も迅速に行われ、一連の対応状況は制御室に掲示したチェックシートに集約されました。

訓練終了後には、非常時における、指示系統および状況確認の手順ならびに消火体制などについて、訓練内容に沿って改めて確認しました。



空気呼吸器を着用し炭酸ガス消火器による初期消火活動にあたる班員



チェックシートにより対応状況を確認する実験責任者と制御室連絡員

平成25年度防災訓練を実施

核融合科学研究所では、10月28日（月）に、土岐市南消防署の協力を得て防災訓練を実施し、職員や学生、関係業者など所員256名が参加しました。

訓練は、震度6弱の大地震が発生、研究所構内の食堂厨房で負傷者が発生し、出火したという想定で行われました。9時30分に地震発生を模擬放送をして訓練を開始し、統括管理者の指示により、直ちに対策本部の設置と自衛防災隊の編成が行われました。自衛防災隊は、救護班や誘導班など5つの班で編成されており、班ごとに消防署・関係機関への通報、緊急車両の誘導、実験設備の安全確認などの活動を迅速に行いました。この間に、統括管理者から一斉避難の指示が出され、訓練に参加した所員全員が構内の避難場所へ速やかに避難しました。10時45分には、負傷者の搬出、火災の鎮火、全所員の安否確認などが完了し、警戒態勢の解除とともに防災訓練が終了しました。

訓練終了後には、土岐市南消防署による高所作業車を用いた救出活動の実演や、所員による消火栓と消火器の取扱い訓練が行われました。



高所作業車による救出活動の実演



誘導班による緊急車両の誘導



大学共同利用機関法人 自然科学研究機構

核融合科学研究所 発行

NIFS NEWS No.214 (2013年10, 11月号)

〒509-5292 岐阜県土岐市下石町322-6
TEL: 0572-58-2222 (代表) FAX: 0572-58-2601
URL: <http://www.nifs.ac.jp/>
E-mail: nifs-news@nifs.ac.jp

* 過去のニュースはホームページにてご覧いただけます。

《複写される方へ》

本誌に掲載された著作物を複写したい方は、(社)日本複写権センターと包括複写特許契約を締結されている企業の方でない限り、著作権者から複写権等の行使の委託を受けている次の団体から許諾を受けてください。

一般社団法人学術著作権協会 〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル3F

TEL : 03-3475-5618 FAX : 03-3475-5619 E-mail : info@jaacc.jp 著作権の転載・翻訳のような、複写以外の許諾は、直接本研究へご連絡ください。